

目指す学校像		群馬県農林業の多様な担い手育成						<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">達成度</td> <td>A</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>80%以上100%未満</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60%以上80%未満</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>		達成度	A	100%	B	80%以上100%未満	C	60%以上80%未満	D	60%未満
達成度	A	100%																
	B	80%以上100%未満																
	C	60%以上80%未満																
	D	60%未満																
重点方針		1 質の高い教育の実行 2 実績の上がる学生募集の実行 3 実績の上がる進路指導の実行 4 県民の期待に応えられる研修の実行																
番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント										
1	質の高い教育の実行	1 これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。	・学生にとって分かりやすい授業の実施	・授業評価にもとづく授業方法の改善 教養科目・共通専門科目の授業アンケート (H28:コース専門科目)														
		2 課題解決研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育んでいる。		・よりよい授業のための研修実施 新任職員への支援 (職場研修、派遣研修、OJT研修)														
		3 1年次は全寮制をとる、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。	・学生がやる気と自信の持てる教育	・能動的に学ぶ力を育てる アクティブラーニングの導入 課題研究・意見発表等への取り組みの強化 (全国大会出場を目指す)														
		4 今年度から、「農業コース」を地域農業や6次産業化をマネジメントできる人材を養成する「農と食のビジネスコース」に、「森林・環境コース」を林業技術者の養成を重点とする「森林コース」に改編。また、「野菜コース」「花き・果樹コース」の定員を増やし担い手の育成を強化する。		・先進農林家等体験学習の効果的な実施 受け入れ先の事前学習指導と連携、調整 インターンシップを兼ねた研修 ・カリキュラムにGAPを導入 ・基礎学力向上 実習等で必要な学び直しの補講の実施 ・企画・販売学習の強化 生産から加工・商品開発まで一連の学習 ・1分間スピーチによるプレゼンテーション能力の向上 ・学業優秀者、生活態度優秀者の表彰														
			・社会生活の基本を身につける	・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む ・学生、職員一体となったあいさつ運動の実施 ・地域との連携 箕輪城まつりへの参加と地域住民と連携した景観づくり														

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
			・教育環境の充実	・教育施設・寮の整備 ・寮の生活環境改善 ・キャンパスの環境整備				
		(数値目標と評価)		◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上 ◎アクティブラーニング試行導入授業 3科目 ◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上 ◎懸賞論文等への応募者 1年生 80%以上				
2	実績の上がる学生募集の実行	1 入校生の定員は確保されていない状況(H29年度入校生62名/定員100名)にある。 2 近年の入校生の状況は、非農家出身者の増(H29入校生:76%)、女子学生の増(H29入校生:29%)が特徴となっている。 3 本校入校生の約6割が農業高校出身者(H29年入校生:63%)であり、農業高校との連携が重要となっている。	・入学希望者や保護者への農林大学校のPR ・農業高校との連携強化	・魅力あるオープンキャンパスの開催 学生が中心となった運営 ・県内高校への学生募集訪問 全職員での取り組み ・学校案内やホームページによるPR(農林大の魅力情報を発信)の強化 ・全寮制に対する不安解消 在校生から寮生活の楽しさを伝える(出身高校への派遣) ・連携会議等を通じた情報交換 農業高校の担任等へのPR強化 ・積極的な学校見学会の受入れ ・職員による派遣講義で農林大の魅力を伝える				
		(数値目標と評価)		◎オープンキャンパス 参加者数 実参加者150名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上 ◎高校訪問 2回以上実施 ◎HPの更新回数 50回以上 ◎入校生の確保 72名以上				

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント	
3	実績の上がる 進路指導の実行	1 H28年度卒業生の 進路決定率は98.6% で、進路決定者のうち 就農30.6%(森林・環 境コースを除く 39.3%)、就職68.1%、 進学1.4%であった。農 林業団体への就職が 良好であったことが特 徴である。 2 森林・環境コースを 除く就農率は近年40 ~50%となっている。 うち雇用就農は40~ 50%で雇用就農者が 増えている。	(1年生) ・進路希望の把握と 進路指導体制の強 化	・進路方向の決定と進路別指導 個別面談 希望調査 ・進路ガイダンスによる指導 ・学内企業説明会の開催 ・社会人としてのマナーアップ講 座等の開催 ・就農、就業(林業)への支援 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準 備型)、緑の青年就業準備給付 金の活用					
			(2年生) ・きめ細やかな進路 別指導	・就農者、雇用就農者、就業者 への支援 農業法人の学内企業説明会開 催(情報収集と分析指導) 海外研修への参加誘導 農業次世代人材投資資金(準 備型)、緑の青年就業準備給付 金の活用 農業経営士との連携検討 ・就職活動状況の把握と支援 面接指導 ・編入学希望者への支援 補講、面接指導等					
			・専門資格取得教育 の強化	・補講の実施 毒物劇物取扱者 危険物取扱者(乙4類) 簿記検定 日本農業技術検定2級 他					
		(数値目標と評価)	(2年生) ◎進路決定率 100% ◎就農率 50%以上 ◎林業関係の就業率 60%以上						
		(1・2年生) ◎農業次世代人材投資資金(準 備型)、緑の青年就業準備給付 金受給者 10名							
		◎日本農業技術検定(2級)の合 格率 30%以上							
		◎合格率 毒物劇物取扱者 40%以上 危険物取扱者(乙4類) 30%以上 商業簿記2級 30%以上 農業機械系資格 100%							

番号	課題	現状	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員会からのコメント
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 「野菜専門技術課程」「野菜基礎技術課程」「花き入門課程」「果樹入門課程」の4課程を設け、うち「野菜基礎技術課程」を5コースに細分し、実施している。H28年度は、定員(145名)を超える応募(168名)があった。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・円滑な就農に向けた体系的な研修の実施 野菜専門技術課程では、農業経営に関する視察研修を取り入れて実施 ・JA等と連携した担い手の育成 JAの基礎講座修了後のステップアップ研修として連携する。				
		2 農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。最近の傾向として高齢者、女性、雇用就農者の受講希望が多くなっている。	・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 農繁期の基礎研修は、安全研修として実施 ・農業機械女性農業者研修の実施 安全研修から免許取得研修までを組み合わせ実施 ・農作業安全研修の実施 農業事務所等と連携した研修の実施				
		3 公開講座は、前分として、庭木管理、野菜づくり、梅加工の3講座、7回の開催を計画している。	・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・農林大の持てる資源を活用した講座の実施を通して、農林大のPRにもつなげる。				
				◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上 80%以上 ◎野菜専門技術課程就農計画作成 100% ◎野菜専門技術課程就農率 95% ◎大型特殊自動車免許等取得 合格率 100% ◎運転免許研修中の事故発生率 0% ◎農業機械研修受講女性数 20名 ◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 15回／150名 ◎公開講座の開催数と受講者数 8講座／310名 ◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上				